

令和3年8月3日 総合政策委員会 開催状況

開催年月日 令和3年8月3日

質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員

担当部課 総合政策部政策局参事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 北海道におけるまん延防止等重点措置について</p> <p>(一) コロナ対策の評価等について</p> <p>東京都を中心に1日あたりの感染者が、過去最多を更新しています。本道でも、この1週間、二千人を超える感染者が出ています。感染の急拡大が止まらず、極めて深刻な状況です。私どもは、コロナの終息に向けては、ワクチンの安全かつ迅速な接種、大規模な検査、補償と生活支援の3本柱で、抜本的対策が必要だと提案し続けてきました。</p> <p>北海道は、昨日から3度目となる札幌市を措置区域とする、まん延防止等重点措置の適用となりました。2回目のまん延防止等重点措置が、7月11日に解除になって以降、北海道独自の対策をとっていると言いつつも、デルタ株への置換が進み感染の急拡大に歯止めがかからなかったこれまでの対策が、どこが不十分だったのか、今後どういう対策が必要なのか、そうしたアセスメントは、これまで、どのように行われてきたのか伺います。</p> <p>(二) 感染拡大防止対策について</p> <p>これまで緊急事態宣言、そして、まん延防止等重点措置下での対策としては、飲食店への休業・時短営業を柱に展開されてきたと承知しております。飲食店での集団感染の発生は、全体での比率は低くなっておりまして、学校や医療施設、社会福祉施設についての集団発生が多くなっています。休業・時短営業を柱に据えたこれまでの感染抑止対策では効果を得られていないのではないかと考えますが、どのような認識でしょうか。</p> <p>【指摘】</p> <p>飲食店への対策が、これまで効果を上げているというものが、集団感染発生の大きな要因となる施設、社会福祉に対しても、その職種の特性に合わせた対策がとられるべきだと、このことは指摘します。</p>	<p>【尾崎政策局参事】</p> <p>感染症対策についてであります。道では、これまで、新規感染者数や医療提供体制の負荷の状況はもとより、集団感染の発生状況など、国の専門家が示した指標について、モニタリングを行い、有識者や専門家の方々のご意見を伺いながら、毎週、対策本部を開催し、分析や対策の検討を行ってきたところでございます。</p> <p>また、先月26日には有識者会議を開催し、これまでの取組や課題、今後の方向性についてご意見をいただいたところでございます。</p> <p>今後も、対策の節目で、有識者をはじめとする各分野の専門的な知見も活用させていただきながら、より実効性ある取組につなげてまいりたいと考えております。</p> <p>【石井政策局参事】</p> <p>対策の効果についてであります。これまで道では、緊急事態措置等により飲食店に対する時短や酒類の提供の制限等の要請を行ってきたこともあり、飲食店における集団感染は、現在、低い水準で推移しておりますが、札幌市をはじめ、道内各地においては、飲食の場面における感染事例の確認が継続している状況にございます。</p> <p>特に、飲食の際には、マスクを外した会話の機会が多くなることから、国の専門家において、感染拡大の主な起点とされ、飲食における感染が、その後の家庭や会社等での拡大につながることも考慮し、飲食の場面への対策の徹底が重要との見解が示されております。</p> <p>道としては、こうした対策の実効性を高めていくため、その目的や必要性等について、引き続き、丁寧な情報発信に努めながら、道民の皆様や事業者の方々のご理解とご協力を得られるよう努めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 感染予防の強化について</p> <p>北海道の感染状況としては、緊急事態宣言に匹敵する状況ではないかと、私は考えています。しかし、まん延防止等重点措置が適用になりました。飲食店に対する時短営業、休業要請、これが今まで通りの感染拡大防止の柱になっていますけれど、これで本当に感染拡大に歯止めがかかるのかという疑念があります。</p> <p>札幌市を対象に飲食店への酒類提供停止、この対策に対して札幌で酒類が制限されれば、小樽に飲みに来るのではないかと、隣接の小樽市では、札幌からの流入増による感染拡大への懸念の声も上がっているところです。</p> <p>新型コロナウイルス対策分科会の尾身会長は、「人々が緊急事態に慣れ、飲食店ももう限界だとの声が聞かれる中で、人々の行動制限だけに頼るとい時代はもう終わりつつある」との認識を示しました。東京都の4度目を含む首都圏での緊急事態宣言が出ていることを踏まえ、対策にも道独自の新たな視点が必要ではないかと考えますが、どのように取り組むのか伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>感染防止対策の徹底を図り、抑制に向けて取り組んでまいるとご答弁いただきました。感染の多くが、インド由来の変異ウイルス、デルタ株に置き換わっておりますし、ワクチンの効用の限界も言われております。コロナの収束に向けては、ワクチンの安全かつ迅速な接種、大規模な検査、補償と生活支援の3本柱が重要であることは変わらないと思います。検査体制の強化等の話に踏み込みますと、これは保健福祉の所管と言われますので、対策本部として、是非、対策に関する認識や必要性の共有、これをより一層、図っていただき適切な対応に当たっていただきたいと考えます。併せて、知事は現状の感染拡大について、最大の危機という発言をしています。しかし、まん延防止等重点措置に留まっています。市民には行動制限を求めていますし、道外の方々には北海道への移動を控えるように要請しつつ、その一方で、国の対策を容認して来ました。</p> <p>何よりも、こうしたダブルスタンダードの姿勢、これが、行動変容要請のメッセージに迫力を欠くことになるのではないかとこの疑念を持っているということを指摘させていただきます。</p>	<p>【天野政策局次長】</p> <p>今後の対応についてであります。現在、札幌市内においては、感染性の高いデルタ株への置き換わりが進み、市中において感染が広がっている状況にあります。感染拡大を抑制していくためには、人と人との接触機会を徹底的に低減させていくことが重要と考えてございます。</p> <p>このため、札幌市内においては、できる限りの外出を控えていただくことに加えまして、札幌市以外の皆様や首都圏などから来道を検討されている方に対しては、札幌市との往来をできるだけ控えることを要請し、さらに、人の流れを抑制していくため、感染対策の肝とされる飲食の場面における時短等の対策に取り組んでいるところでございます。</p> <p>国においては、ワクチン接種状況と併せて、医療提供体制の負荷に着目した分析を進め、適切に判断した上で、社会経済活動の制限緩和に向けた道筋を示すとしており、道としても、国の検討状況を注視しながら、市町村へのきめ細かな支援を行い、希望する方へのワクチンの接種が1日でも早く進むよう、取り組ましますとともに、まん延防止等重点措置の下、感染防止対策の徹底を図り、感染拡大の抑制に向けて取り組んでまいります。</p>